

今回のトピック

[AI システムの影響評価](#)

[Digital Ecosystems and Platforms - Fraunhofer IESE](#)

[RRI はボランティアの集団、からの](#)

[Webinar 4th IR アカデミー見逃し配信を開始しました](#)

[ハノーバーメッセ 2026 の出展募集が始まっています](#)

本メールは RRI または WG1 の活動に関わっている方、関連イベントに参加された方、および RRI からの情報提供に同意いただいた方に BCC 配信しています。

ご自身の所属変更で他の方に配信希望される方、および他に配信希望される方がいらっしゃる場合、また、配信停止を希望される方は、本メール末尾をご参照ください。

-----*

AI システムの影響評価

日本規格協会（JSA）からの標準化動向情報のうち、公開情報を紹介します。以下、公開情報より抜粋です。引用開始・・・スタンフォード大学が最近発表した 2025 年 AI インデックスレポートによると、AI 企業の倫理的行動に対する懐疑心が高まり、公平性への信頼が低下していることが明らかになった。各国政府は AI 関連の新たな規制を強化しており、それらを支える ISO/IEC 42001（情報技術－人工知能－マネジメントシステム）などの国際規格も開発されているが、AI の潜在的なリスクを軽減し、社会的な懸念に対処するためには、さらなる取り組みが必要である。

AI システムを使用・開発する組織が AI システム影響評価を実施することは、その効果的な方法の一つとなる。システムの全体的な影響を包括的に分析し、悪影響への対処策を策定することで、企業は AI の安全性を向上させ、信頼を育むことができる。今年 5 月に発行された ISO/IEC 42005 [情報技術－人工知能（AI）－AI システムの影響評価] は、組織がこのような影響評価を実施するための指針を示し、AI システムが人々や社会に与える影響を評価し、それを AI リスクマネジメントに統合する方法を規定している。・・・引用終了。

標準化検討においては各地域から視点や課題事項が提起・調整されます。自分で見えていない点を評価する上で、これらの情報は参考になると思います。

<https://iec.ch/blog/measuring-impact-ai-systems>

Digital Ecosystems and Platforms - Fraunhofer IESE

独フラウンホーファー研究機構の内、Experimental Software Engineering 分野を担当する IESE のホームページにデジタルエコシステムに関する検討状況が記載されています。以下のような問いに対する見解が述べられています。

- デジタルエコシステムとは？
- デジタルエコシステムは企業にどのような機会を提供しますか？
- デジタルエコシステムに対処する際にはどのような課題がありますか？
- デジタルエコシステムに関して、私の会社はどのような立場にありますか？ 以下省略

ここでは米国のデジタルエコシステムに関する IESE の分析を踏まえつつ、ドイツにおいてどのようにデジタルエコシステムを捉え、企業が関わっていくかが示されています。日本ではまだまだこれからの議論かもしれませんが、参考となる視点が得られるかもしれません。

<https://www.iese.fraunhofer.de/en/services/digital-ecosystems.html>

RRI はボランティアの集団、からの

ここは WG1 のメルマガなので、WG1 ベースでのお話にしましょう。WG1 の正式名は「IoT による製造ビジネス変革 WG」です。「変革」を目指しています。そのために何が今起こっているのか・何が変わっていないのか理解し、どんな変革が求められるのか、そのために協調してできることは何なのか、また、これらを考える上で必要な議論の場をどのように設定するか、など会員が考え運営・実施する場となっています。一方で「変革」のための社会実装にはリソースが必要であり、ボランティアベースで参加している会員にとってリソースのコミットメントが難しいのも事実です。「我々はボランティアの集団だからねえ」と自虐的に語ることが無い訳ではありません。

でも、そこで止まる必要はないのではないのでしょうか。RRI ですべてを「変革」できるわけではありませんが、RRI が説得力ある「変革へのシナリオ」を作り・語ることで他のステークホルダーと共に実現へのうねりを作っていくことはできるのではないのでしょうか。

9/5 金 14:30-16:30 には WG1 全体会合（WG1 会員限定）があります。また、10 月の国際シンポジウムの案内も近々に行う予定です。皆さんの積極的な参加をお願いします。

Webinar 4th IR アカデミー見逃し配信を開始しました

最近開催した第 10 回、第 11 回の見逃し配信を開始しました。

第 10 回：ハノーバーメッセ 2025 を読み解く

第 11 回：業務視点からの DX 実現コミュニティ（DRC）-第二期活動報告

当日ご参加できなかった方はぜひご覧ください。

4th IR アカデミー 開催履歴

<https://www.jmfrri.gr.jp/4thacademy.html>

ハノーバーメッセ 2026 の出展募集が始まっています

会期は 2026 年 4 月 20 日（月）～ 4 月 24 日（金）。テーマは「CONNECTING INDUSTRIES. GUIDING TO BETTER SOLUTIONS.」です。会場のレイアウトも大幅に変わるようです。パートナー国はブラジルです。先日のメッセ報告でも共有しましたが、来年も各所でエコシステム作りや連携の会話がなされるものと思われます。「見に行く」に加えて「話に行く」という視点で計画されても良いかもしれません。

<https://intl-linkage.co.jp/dm/hannovermesse/>

-----*

本メールは HTML 形式での配信としています。

このメルマガの一部を引用の形で利用することは、出典を明確にいただく限り、個別に許可を取らなくても結構です。ただし、「メルマガ限定」と書いてある部分は例外（引用不可）とさせていただきます。

個人情報保護方針は RRI のホームページの「RRI について」メニューから「プライバシーポリシー」を選択ください。

ご自身の所属変更で他の方に配信希望される方、および他に受信希望される方がいらっしゃる場合は以下より配信申請をお願いします。

[メルマガ配信登録](#)

本メルマガの配信の停止を希望される方は下記より配信停止をお願いします。

[メルマガ配信停止](#)

本メルマガに対するフィードバックやご質問は、以下よりご連絡をお願いします。

[お問い合わせ](#)

RRI（ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会）WG1 : <https://www.jmfrri.gr.jp/>

=====*